

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称
(化学物質又は製品の名称)

タキボンド # 6 0 7

会社名
住所
担当部門
電話番号(緊急連絡先)
FAX番号
推奨用途及び使用の制限
作成
改訂

: タキロンシーアイ株式会社
: 〒671-2421 兵庫県姫路市安富町長野405
: 安富工場 技術グループ
: 0790-66-2285
: 0790-66-2378
: 床材の接着
: 2001年 1月18日
: 2026年 4月 1日

2. 危険有害性の要約

GHS分類

		一般用	冬用
物理化学的危険性	引火性液体	区分2	区分2
	健康に対する有害性		
	急性毒性 (吸入－蒸気)	区分4	区分4
	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分2	区分2
	呼吸器感受性	区分1	—
	皮膚感受性	区分1	—
	生殖毒性	—	区分2
	特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分3(気道刺激性、麻酔作用)	区分3(気道刺激性、麻酔作用)
	特定標的臓器毒性(反復ばく露)	—	区分1(呼吸器系、中枢神経系、消化管)
			区分2(血液)
	誤えん有害性	分類できない	分類できない
環境に対する有害性	水生環境有害性 短期 (急性)	区分3	区分3
	水生環境有害性 長期 (慢性)	区分3	区分3

記載がないものは区分に該当しない、もしくは分類できない
GHSラベル要素
絵表示又はシンボル：



- 注意喚起語：危険
危険有害性情報：

一般用
 - ・引火性の高い液体及び蒸気
 - ・強い眼刺激
 - ・吸入するとアレルギー、ぜん(喘)息又は呼吸困難を起こすおそれ
 - ・アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
 - ・呼吸器への刺激のおそれ
 - ・眠気又はめまいのおそれ
- 冬用
 - ・引火性の高い液体及び蒸気
 - ・強い眼刺激
 - ・生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い
 - ・呼吸器への刺激のおそれ
 - ・眠気又はめまいのおそれ
 - ・長期にわたる、又は反復ばく露による血液の障害のおそれ
 - ・長期にわたる、又は反復ばく露による臓器（呼吸器、中枢神経系、消化管）の障害

・長期継続的影響によって水生生物に有害

・長期継続的影響によって水生生物に有害

注意書き

[安全対策]

- ・全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- ・床材の接着用途以外には使用しないこと。
- ・容器を密閉し、開封した接着剤は、速やかに使い切ること。
- ・容器は丁寧に扱い、内容物をこぼさない事。
- ・熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。一禁煙。
- ・有機溶剤作業主任者立会いのもとで使用すること。
- ・粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
- ・換気が不十分な場合、呼吸用保護具を着用すること。
- ・防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用すること。
- ・火花を発生させない工具を使用すること。
- ・静電気放電に対する予防措置を講ずること。
- ・保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。
- ・屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
- ・汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
- ・取扱い後はよく手を洗うこと。口をすすぐ事。
- ・環境への放出を避けること。

[応急措置]

- ・火災の場合：安全第一で、適切な消火剤を使用し消火すること。
- ・皮膚(又は髪)に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。多量の水と石けん(鹼)で洗うこと。
- ・皮膚刺激又は発しん(疹)が生じた場合：医師の診断、手当てを受けること。
- ・眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。直ちに医師の診断、手当てを受けること。
- ・吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- ・呼吸に関する症状が出た場合：医師に連絡すること。
- ・気分が悪いとき：医師の診断、手当てを受けること。
- ・衣服にかかった場合：汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
- ・ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診断、手当てを受けること。
- ・漏出した場合：乾いた砂やウエス等により、拭き取り回収すること。

[保管]

- ・容器を密閉して直射日光の当たらない 5～35℃で、換気の良い場所で、施錠して保管すること。
- ・法令で定められた限度内で、場所を決めて保管すること。
- ・子供の手の届かないところに置く事。

[廃棄]

- ・容器は、中身をすべて使い切ってから廃棄する事。
- ・内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 : 混合物
化学名又は一般名 : ウレタン樹脂系接着剤
成分及び含有率

成 分	含 有 率		CAS 番号	官報公示整理番号 化審法
	一般用	冬用		
酢酸エチル	25-35%	15-26%	141-78-6	2-726
アセトン	5%未満	8-20%	67-64-1	2-542
4,4'-ジフェニルメタンジイソシアネート(MDI)	1%未満	1%未満	101-68-8	4-118
トリレンジイソシアネート(TDI)	1%未満	1%未満	26471-62-5	3-2214
すず及びその化合物	—	1%未満	—	—

含有率は参考値
本製品中のその他の成分に、毒物及び劇物取締法、労働安全衛生法「表示、通知対象物質」及び化学物質管理促進法のカットオフ値以上の化学物質は含有しない。

4. 応急措置
- 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。呼吸に関する症状が出た場合は、速やかに医師に連絡すること。
- 皮膚(又は髪)に付着した場合：直ちに拭き取り、汚染された衣類を全て脱ぐこと。多量の水と石けん(鹼)で洗うこと。皮膚刺激又は発しん(疹)が生じた場合は、医師の診断、手当てを受けること。
- 眼に入った場合：水で最低15分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼刺激が続く場合、医師の診断、手当てを受けること。
- 飲み込んだ場合：多量の水を飲ませて吐き出させ、直ちに医師の診断を受ける。無理に吐かせないこと。
5. 火災時の措置
- 適切な消火剤：粉末ドライケミカル、二酸化炭素、泡消火剤、水噴霧
- 使ってはならない消火剤：棒状水
- 消火方法：火元への燃焼源を断ち、消火剤を使用して風上から消火する。
- 消火をする者の保護：保護衣を着用するほか、状況によっては不浸透性手袋、有機ガス用防毒マスク等の保護具を着用する。
6. 漏出時の措置
- 人体に対する注意事項：漏出した場所の周辺にはロープを張り、人の立入りを禁止する。
- 保護具及び緊急時措置：作業の際は、保護具を着用する。
- 環境に対する注意事項：多量の場合には流路を盛土などで囲って、流出を防止する。
- 封じ込め及び浄化の方法及び機材：少量の場合は、紙や布で拭き取り焼却する。多量の場合は、火花の出ないシャベル等で密閉できる容器にすくい取る。
- 二次災害の防止策：付近の着火源を取り除き、消火器材を準備する。漏出量の多少に関わらず、漏出液を下水、河川、海洋等に排出させてはならない。
7. 取扱い及び保管上の注意
- 取扱い
- 技術的対策：当製品を取り扱うときは保護眼鏡、ゴム手袋、換気が不十分な場合は有機ガス用防毒マスクを着用する。
- 安全取扱注意事項：火気厳禁。
- 接触回避：水等の活性水素化合物と反応する為、それらとの接触は避ける。
- 保管
- 安全な保管条件：容器を密閉し直射日光の当たらない5～35℃で、換気の良い場所で、施錠して保管する。
- その他、消防法、労働安全衛生法等の法令に定めるところに従う。
8. ばく露防止及び保護措置

	TDI	MDI	酢酸エチル	アセトン	すず及びその化合物 (冬用)
管理濃度 (労働省告示第79号)	0.005ppm	未設定	200ppm	500ppm	未設定
許容濃度 (日本産業衛生学会：2025年)	0.005ppm (0.035mg/m ³)	0.05mg/m ³	200ppm (720mg/m ³)	200ppm (475mg/m ³)	未設定
許容濃度 (ACGIH)	(2014年) 0.005ppm(TWA) 0.02ppm(STEL)	(2014年) 0.005ppm(TWA)	(2012年) 400ppm(TWA)	(2012年) 500ppm(TWA) 750ppm(STEL)	(2004年) 0.1mg/m ³ (TWA) : Snとして 0.2mg/m ³ (STEL) : Snとして
濃度基準値	未設定	未設定	未設定	未設定	未設定

濃度基準値：労働安全衛生規則第577条の2第2項の厚生労働大臣が定める濃度の基準

設備対策 蒸気、ミストが発生する場合には、局所排気装置などの換気のための装置を設置する。

保護具

呼吸用保護具：換気が不十分な場合、有機ガス用防毒マスクを着用する。

手の保護具：状況に応じ、PE、ゴム製等の不浸透性の手袋を着用する。

眼、顔面の保護具：状況に応じ、側板付又はゴーグル型保護眼鏡を着用する。

皮膚及び身体の保護具：状況に応じ、不浸透性の長袖作業衣を着用する。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態：粘稠液
臭い：特徴的な臭気
沸点又は初留点及び沸騰範囲：56.1℃(アセトン)
可燃性：データなし
爆発下限及び爆発上限界/可燃限界
引火点：-4℃(酢酸エチル)
-20℃(アセトン)
自然発火点：427℃(酢酸エチル)
pH：データなし
粘度：14,000～20,000mPa・s(25℃)(一般用)
蒸気圧：0.0033kPa(25℃)(TDI)
24.6kPa(20℃)(アセトン)
密度及び/又は相対密度：1.20～1.40(25℃)
粒子特性：データなし

色：灰白色
融点/凝固点：データなし
下限：0.9% 上限：9.5%(TDI)
下限：2.2% 上限：11.5%(酢酸エチル)
下限：2.6% 上限：12.8%(アセトン)
分解温度：データなし
13,000～19,000mPa・s(25℃)(冬用)
10kPa(20℃)(酢酸エチル)
0.001Pa未満(25℃)(MDI)
相対ガス密度：データなし
その他のデータ：データなし

10. 安定性及び反応性

反応性・化学的安定性：通常の取扱い条件下においては安定。
危険有害反応可能性：湿気、加熱により反応して高分子化し、増粘、ゲル化を起こす。
避けるべき条件：高温多湿、火災、スパーク及び着火源。
混触危険物質：活性水素基をもつ物質（水、水分、アルコール、アルカリ物質、アミン等）
危険有害な分解生成物：燃焼により煙、ガス（一酸化炭素等）が生成される。

11. 有害性情報

急性毒性(50%致死量等を含む)：

	TDI	MDI	酢酸エチル	アセトン	すず及びその化合物 (冬用)
LD ₅₀ (経口)ラット	5,840mg/kg	>5,000mg/kg	4,940mg/kg	>5,000mg/kg	>6,000mg/kg
LD ₅₀ (経皮)ウサギ	>9,400mg/kg	>5,000mg/kg	>18,000mg/kg	>5,000mg/kg	—
LC ₅₀ (吸入)ラット	>0.47mg/L (1hr)	1.51mg/L (4hr)	19,600ppmV (4hr)(蒸気)	75.8mg/L (32,000ppm)	—

皮膚腐食性/皮膚刺激性：混合物としての知見なし。
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性：
ウサギ4匹を用い試験物質原液0.1mLを点眼したDraize試験において、角膜混濁は2日目までに回復(4/4)、虹彩炎は2日目までに回復(1/4)、結膜の発赤・浮腫・分泌物などは7日までに消失(4/4)し、24、48、72時間のMMAS(最大平均スコア)15.0との報告(ECETOC TR48(1998))があった。なお、EU分類では、Xi、R36に分類されている。(酢酸エチル)
蒸気は人の眼を刺激する。しかし暴露が止まると刺激性は続かない。ウサギではSevereという結果が報告されている。角膜上皮は破壊されるが、基質まで至らず、角膜上皮の破壊は4-6日で回復する。
アセトンは腐食性の眼刺激性ではない。(アセトン)
呼吸器感作性：
呼吸器感作性があることは人と動物で実証されている。またEUの区分では呼吸器感作性。(MDI)
動物及び人に対する呼吸器感作性が試験されており(CERI hazard data collection 97-20 1998, WHO 1987, DFG 2003, ACGIH 2004, ACC 2004, Botham et al.1988, Karol 1983, Pauluhn and Mohr1998)、EU Risk Phrase R42に該当する。(TDI)
皮膚感作性：
皮膚感作性があることは人と動物で実証されている。またEUの区分では皮膚感作性。(MDI)
動物及び人に対する皮膚感作性が試験されており(CERI hazard data collection 97-20 1998, WHO 1987, DFG 2003, ACC 2004, van Och et al. 2000, Zissu et al. 1998)、EU Risk Phrase R43に該当する。(TDI)
生殖細胞変異原性：混合物としての知見なし。
発がん性：混合物としての知見なし。
生殖毒性：ラットの高濃度ばく露(11000ppm(20mg/L))でわずかな発生毒性(胎児体重減)が、マウスの高濃度ばく露(6600ppm(15.6mg/L))で胎児体重減、後期胚吸収発生率増が報告されている。(アセトン)
特定標的臓器毒性(単回ばく露)：
ヒトで400ppmを4時間ばく露により鼻腔、咽喉と眼に軽度の刺激が報告されている [DFGOTvol.12

(1999、ACGIH (2001))。また、ネコ、マウスで吸入ばく露、ウサギでは経口ばく露により、それぞ

れLD50またはLC50以下の用量で麻酔作用が記述されており、一過性であるとの記述がある (ACGIH (2001)、IUCLID(2000))。(酢酸エチル)

ヒトへの12000ppmの暴露で喉の刺激、1190、2400mg/m³/6hrの暴露で鼻、喉、気管の刺激、1000ppm/4hrの暴露で喉の刺激があった。200mlを飲み込んだ男性に昏睡(12時間後意識回復)、12000ppm暴露した労働者に頭痛、めまい、足の脱力、失神があった。(アセトン)

動物試験で一時的な刺激性作用が報告されているが、MDIは低蒸気圧であり、この濃度では人への刺激性は殆ど起こらない。しかしMDIは推奨ばく露限界以上の濃度では刺激を起こす可能性がある。(MDI)

動物への一時的影響に関する報告 (Shiotsuka 1987、Weyel et al.1982、Sangha and Alarie 1979)およびヒトへの呼吸器刺激を起こす濃度が0.05～0.1ppmである (Henschler 1962)。(TDI)

特定標的臓器毒性(反復ばく露)：

ボランティアによる試験で 500ppm、6 時間/日、6 日の暴露群に白血球、好酸球の有意な増加及び好中球の貧食作用の有意な減少が観察されている。ラット、マウスの試験でもガイダンス上限値を大きく超えた投与量ではあるが、ヒトに見られたと同様な血液学的変化が認められた。(アセトン)

誤えん有害性：混合物としての知見なし。

12. 環境影響情報

水生環境有害性 短期 (急性)：混合物の濃度計算により、「区分 3」とした。

水生環境有害性 長期 (慢性)：混合物の濃度計算により、「区分 3」とした。

オゾン層への有害性：混合物としての知見なし。

13. 廃棄上の注意

廃油と廃プラスチック類の混合物に相当し、処理は都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

廃棄の際は危険性情報の反応性をふまえて処理を行うこと。

14. 輸送上の注意

「取扱い及び保管上の注意」の項の記載による他、化学物質に関する一般的注意による。

国連番号 : 1133
品名(国連輸送名)：接着剤
国連分類 : 3(引火性液体類)
容器等級 : II
海洋汚染物質 : 非該当

輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策：

「7. 取扱い及び保管上の注意」の項の記載に従う。

容器からの漏れの無いことを確かめ、転倒、落下、破損の無い様に、積み込み、荷崩れ防止を行う。

国内規則がある場合の規制情報

陸上輸送 : 消防法、毒物及び劇物取締法、高圧ガス保安法に従う。
海上輸送 : 船舶安全法、港則法に従う。
航空輸送 : 航空法に従う。

緊急時応急措置指針番号 (容器イエローカード指針番号) : 1 2 8

15. 適用法令

労働安全衛生法

表示対象物質(第57条 施行令第18条)

… 該当(酢酸エチル, アセトン)

通知対象物質(第57条の2 施行令第18条の2)

… 該当(TDI, MDI, 酢酸エチル, アセトン, すず及びその化合物:冬用)

危険物(施行令別表第1第4号)

… 引火性の物

有機溶剤中毒予防規則(施行令別表第6の2)

… 第2種有機溶剤(酢酸エチル, アセトン)

化学物質管理促進法 (PRTR法)

… 非該当

毒物及び劇物取締法

… 非該当

消防法

… 危険物第2類引火性固体(危険等級Ⅲ)

建築基準法(2003年7月より)

… 使用制限なし

悪臭防止法

… 酢酸エチル

船舶安全法 …引火性液体類
 廃棄物の処理及び清掃に関する法律 …特別管理産業廃棄物（廃油）

16. その他の情報（記載内容の問い合わせ先、引用文献等）

ホルムアルデヒド放散量に関する表示（JIS A 5536）：F☆☆☆☆

4VOC放散速度基準：日本接着剤工業会自主管理規定 JAIA-608314、JAIA-602151 4VOC基準適合
 尚、当製品は、JIS A 5536（床仕上げ材用接着剤）製品認証を受けております。

〔認証番号 GB0607078〕

参考資料：化学物質管理促進法対象物質全データ（化学工業日報社）
 ：各社使用化学品の「安全データシート」
 ：GHS分類結果データベース（独立行政法人製品評価技術基盤機構）
 ：GHSモデルSDS情報（安全衛生情報センター）

- ・本 SDS において労働安全衛生法の通知対象物質の含有率が幅表示の場合は、営業秘密である場合を含みます。
- ・記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成していますが、危険・有害性の評価は必ずしも十分ではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。
- ・取扱いに際しましてはご使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定くださるようお願いいたします。